

【令和5年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議（第1回）要点録	
開催日時	令和6年3月26日（火）10時00分～12時00分
開催場所	江田島市役所 本庁 4階 401・402会議室
出席者	<p>■有識者会議委員（敬称略 所属団体については就任時の状況）</p> <p>濱谷 一真 江田島市自治会連合会（代理：伊勢木）</p> <p>小松 孝也 江田島市PTA連合会（代理：鷹谷）</p> <p>小原 正清 江田島市農業委員会</p> <p>三浦 誠 江田島市漁業振興協議会</p> <p>迫 寛和 江田島市商工会</p> <p>伊藤 富美雄 一般社団法人江田島市観光協会</p> <p>上水流 久彦（座長） 広島県公立大学法人県立広島大学</p> <p>長光 正樹 江田島市金融懇談会（広島銀行）（代理：川本）</p> <p>木家 浩二 厚生労働省広島労働局呉公共職業安定所</p> <p>南 亮介 広島県健康福祉局子供未来応援課</p> <p>■江田島市</p> <p>【事務局：企画部企画振興課】</p> <p>飴野 秀樹 企画部企画振興課 課長</p> <p>重田 あゆみ 企画部企画振興課 課長補佐兼広報係長</p> <p>花野 大介 企画部企画振興課 企画係長</p> <p>吉田 大輔 企画部企画振興課 主任</p> <p>渋谷 智寛 企画部企画振興課 主事</p> <p>【事務局：株式会社エブリプラン呉営業所】</p> <p>加藤 文教</p>
欠席者	森下 恵子（江田島市認定こども園きりくし保護者会） 後藤 峻（江田島市交流定住促進協議会）
傍聴者	－
会議次第 及び資料	<p>会議次第</p> <p>1 開会</p> <p>2 座長あいさつ</p> <p>3 自己紹介</p> <p>4 報告・協議事項</p> <p>（1）令和4年人口推計・広島県人口移動統計調査の結果について</p> <p>（2）令和5年市民満足度調査の結果について</p> <p>（3）第2期人口ビジョン・総合戦略の進捗管理について</p> <p>（4）令和4年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の効果検証について</p> <p>5 その他</p> <p>6 閉会</p> <p>【資料】</p> <p>資料1：令和4年人口推計・広島県人口移動統計調査の結果について</p> <p>資料2：令和5年市民満足度調査の結果について</p> <p>資料3：第2期人口ビジョン・総合戦略の進捗管理について</p> <p>資料4-1：令和4年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の効果検証について</p> <p>資料4-2：令和4年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金効果検証シート</p> <p>参考：江田島市まち・ひと・しごと創生本部設置要綱</p>

【令和5年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

事務局	<p>1 開会</p> <p>それではただ今から、令和5年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議を開催いたします。会議は次第に沿って進めさせていただきます。</p> <p>それでは座長からあいさつをお願いします。</p>
座長	<p>2 座長あいさつ</p> <p>令和3年3月に、この会議を経て、江田島市第2期人口ビジョン・総合戦略が策定され、地方創生に関して、この会議で検証していくこととなっています。</p> <p>本日まで出席いただいている各種専門分野の有識者の方々から、専門的かつ忌憚のないご意見をいただければと思います。</p> <p>本日の会議が円滑に進行できるよう、皆様のご協力をお願いします。</p> <p>よろしくお願いします。</p>
事務局	<p>3 自己紹介</p> <p>さて、本日は、各所属で異動などにより、初めて御出席いただいている方がいらっしゃいます。改めまして、皆様に一言ずつ自己紹介をお願いしたいと思います。</p> <p>なお、本日は、当会議委員のうち、2名の方から、欠席の御連絡をいただいております。</p> <p>また、代理として3名の方に御出席いただいております。</p> <p>それでは、右回りで挨拶をお願いします。</p>
各委員	※ 自己紹介（P1の「出席者－有識者会議委員」を参照）
事務局	続いて事務局から自己紹介をさせていただきます。※ 事務局から自己紹介
事務局	また、この会議に議事録の作成支援として、株式会社エブリプランから1名の方に出席をいただいております。
事務局	<p>4 報告・協議事項</p> <p>それでは、当会議の進行につきましては、有識者会議設置要綱第5条第2項の規定によりまして、座長が議長となりますので、ここからの進行は、議長へお願いいたします。</p>
座長	<p>ここからの議事・進行は、私が務めます。</p> <p>それでは、報告・協議事項として、</p> <p>「令和4年人口推計・広島県人口移動統計調査の結果について」、</p> <p>事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(1) 令和4年人口推計・広島県人口移動統計調査の結果について【資料1】</p> <p>※ 内容は、資料1のとおり</p>
座長	<p>ただいま、事務局から説明がありました。</p> <p>質問や御意見などありますか。</p>
委員代理	<p>江田島市が合併したのが平成16年だと思いますが、そのときの人口がちょうど31,000人、今年合併20周年の記念の年にあたるということになります。こういう状況の中で、ここにある資料に江田島市人口動向ということで、10年前がちょうど5,000人近く減少していますが、その前の10年も同じく5,000人くらい、</p>

【令和5年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

	<p>考えてみると、だいたい一年に500人くらいずつ人口が減って、31,000人いた合併時人口が今回の報告では21,000人、ちょうど1万人減少しています。これが江田島市の今の人口動向で一番大きな事実としての経過だったのかなと受け止めています。</p> <p>言いたいのは、今現在の年齢構成の推移を見ると、これからもこの傾向を大きく変えることはなかなか難しい、例えば人口動態の年代別の表が出ていますが、一番大きいところが70～75歳で、これが5年ごとに上がっていきます。そうやっていくと亡くなっていく、一番大きな層が、上へ上へあがっていくと受け止めております。</p>
座長	<p>ありがとうございます。まさしくそのような実態だと思います。一言だけ申しあげると年齢別で見ていただくと20～24歳、25～29歳、30～34歳は女性と男性のバランスにかなり差があり、これは毎回問題になっているところですが、この世代の女性の転出が大きく、これは別に江田島市だけではなくて中山間地域にある自治体のほぼすべてに共通している課題で、ここをどう考えていくかは、本当に大きな問題だろうと常に思っています。よろしいでしょうか。</p>
座長	<p>それでは次に『令和5年度市民満足度調査の結果について』事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(2) 令和4年市民満足度調査の結果について【資料2】 ※ 内容は、資料2のとおり</p>
座長	<p>ありがとうございました。 この件について、ご質問、ご意見はございませんでしょうか。</p>
委員	<p>2番の平均の満足度ポイント、約5割の数字をどのように評価するかが、恐らく大きいのではないかと思います。それはなぜかという先ほどの資料の説明で、10年で1万人減っていると、今後もその傾向が続くと予測される中で、満足度をよしと評価するのか、まだまだと評価するのか、それによって今後の取り組みが変わってくる、あるいはもう少し深掘りしていく必要があるのかなと思います。そこを教えてください。</p>
事務局	<p>ここでいう数値目標は市民満足度ポイントを70点以上というのが、当初設定されています。今、言われるように令和5年度満足度ポイントも、例えば57.1ポイントで、この一年で目標値もまだ達成されていませんし、満足していないという状況でございます。この取り組みで今まで行っていますが、ちょうど今、江田島市も第3次江田島市総合計画、今後10年ということで令和7年度からの10年計画を立てています。そういったところで指標も住みよさとか、そういったところの指標も掲げて、人口が減少していく現実もある中で、そうした状況でもDXの機能を活用しながら、市民が満足して生活が暮らしていける考え方も踏まえてやっていますので、今後も取り組みは進めていき、できる限りこの数値を上げていくことを考えています。</p>
委員	<p>満足度が高くなれば人口減少に歯止めがかかり、あるいはプラスに転ずるところまで踏み込むのかという点はいかがですか。70点を目標とするならば、70点までもっていけば、満足すれば、人口も増えていくのか、そのあたりはどうですか。</p>
事務局	<p>生活に対して満足かどうかという部分が生まれることによって、人口も結果と</p>

【令和5年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

	<p>して影響が出てくるとは考えています。ですが、実際先ほどの説明のように、江田島市だけではなく日本全国が人口減少しております。そういった中で江田島市に新たに住んでもらう人も含めて、住んでいる方が、江田島市の暮らしに満足しているかどうかというところで、言い方は悪いですが、そうした現実もわかった上で、住んだ方が少しでも満足する形を取ることによって、子どもさんが生まれるとか、そういったものが結果として、後々ついてくるという考えでいます。</p>
座長	<p>ありがとうございます。今見ていただくとわかるように、自然動態という件でいうと、年齢が上の方が多いため自然減は避けられないのかなと思います。ただ、ここにありますように、そうなる何が大事かという、新しく子どもが生まれることと、転入していただく方がいるということになると思います。そこで、どのくらい色んな方、色んな施策が打てるかということですが、例えば変化の多い項目を、左側を見ていただくとわかるように、保育園・児童館の整備や、子育て支援サービスの充実が、重要度のポイントとして上がっているのは、やはり子ども子育てというところで、重要度が上がっていますし、ここに注力していくことは今後必要になるだろうと思っています。同時に、江田島市さんは、移住者がいる地域だと思っていますが、例えばそういう意味でいうと、満足度ポイントで、非常にここ数年されているのは企業誘致の推進や市外の情報発信、創業起業の支援で、ある意味、外から人を引っ張ってくる対しての満足度は70点には達していませんが、今回ポイントが上がっているというところでは、そういうところに注力されているのかなと思いつつ、この数字を見ていました。気になったことは、そういう意味でいうと変化項目が多い、どのところも企業誘致や宿泊観光施設の整備等、創業起業の支援は非常にポイントが平成25年度より上がっているというところ、そういう方向で舵を切りながらされているのかなと、この数字を見ました。気になったのは生活基盤の部分について今回どうなんだろうということがありまして、暮らしやすさは非常に重要ですので、ここについては、改めて江田島市さんの方で、ご検討していただく必要があるだろうと思いました。以上です。</p>
委員	<p>これはお願いなんですけど、年配者の方の満足度の度合いと、若者の満足度の度合いとは、相当違うと思います。特に若い人は島に残ってもらう、あるいは来てもらうことが、活性化のためには大事だと思うので、その辺りの年代別の分析も、併せて深掘りしていただければ、何か見えるのではないかと思います。よろしくお願ひいたします。これは要望です。</p>
座長	<p>ありがとうございます。第3次江田島市総合計画の中で世代別のアンケートも取っておりますので、宜しくお願いします。</p>
委員代理	<p>私は今回、江田島市市民満足度調査に回答しましたが、調査の中身が、回答率は40%というのを見る限り、事務局には考えていただきたいと思います。設問がなかなか難しく、本気で考えたら、答えをどう出せばいいかわからない。私のように、いろいろと自治会関係を通じて町の動きについて、比較的情報をいただく立場にありながら、実際は一市民ですから、答えるとき、市がどういうことをやっているか、よく分かりもしないで、中身をどうこう評価して、それが満足かど</p>

【令和5年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

	<p>うかという答えを出す必要がありますが、質問項目が多く簡単ではないです。これが果たして一市民として答えられる中身なのかと感じました。</p> <p>それと一点、結果の見方について、例えば変化の大きい項目の一番下の消防体制や救急体制は、これはマイナスになっているのがよく理解できません。あれだけ江田島消防署能美出張所等、立派な建物ができて、消防体制について、随分江田島市は頑張っていると思います。救急体制については、連日、救急車のサイレンが鳴らないときはないくらい、頻繁に走っています。非常に活躍しているし、重要度も増していると思うのですが、市民の評価としては、結果としてこれだけ落ちています。一方、子育てでも、保育園の整備がものすごく進んでおり、認定こども園えたじま、認定こども園のうみを含めて、それぞれのところに対して力を入れております。それが結果として、満足度の向上につながっていればいいのですが、なかなか結果として数字の出方が、いろいろ各項目を見ると、ばらつきが多いと思ったりもします。果たして、こんなことをやっていて、人口問題を含めて、一歩前に物事が進められるのかと感じました。やり方として満足度調査みたいなものが全国共通的にされているのか分かりませんが、これが果たして本当に現実的に使える数字として、また資料として使える基になるのか、企画振興課の方で、どのように受け止めているのかを聞かせてもらえばと思います。</p>
事務局	<p>委員代理の言われるように現実のところですが、満足度調査で2枚目以降の表にあるように、項目としては68項目ございます。これが16歳以上の無作為抽出した2,000名で、統計という考えの中で項目が大変多いとのことですが、定量的に複数年調査をする中で、大変申し訳ないですが、アンケートを今現在続けさせていただいており、最終年度は令和6年度というところで、現在させていただいています。先ほども出たように数年前と比較することにより、満足度の結果で多少なりとも、このような効果は、市として測れていると思っています。そういった内容を踏まえて、先ほどもお伝えしたように、今度の第3次江田島市総合計画も、暮らしの指標とか人口指標も合わせて5項目立てて、この調査を以後していきたいと思っています。ここが何項目もあって市民の皆さんに、お手間をかけるところを、出来る限りかけないように調査を行いたいと思っています。</p> <p>ポイントの結果で出ているところで、例えば重要度ポイントにつきましては、市民の皆さんが、この項目の事業に重要であるかどうかという意味の中で、アンケートを取らせてもらっています。ですから今回の調査であれば公園緑地の整備や保育園・児童館の整備の重要度が高いのではないかとという結果で、アンケートをしていただき、重要度が低くなったところの消防体制などは、これまで伊勢木委員が言われるように数々の取り組み、機材の整備も含めて、やってきているので、逆に、そういったところが十分充実してきたから、重要度が下がっているというようなイメージで捉えて頂きたいと思います。保育園・児童館の整備とはあるのですが実質、建物は統合される形で動いています。ですが、市民からすれば、サービス等含めた環境の整備には、建物だけではなく、そういった部分を重要と捉えているので、特に若い世代の方、子育て世代の方は重要というところで、項目が上位に上がっている状況です。</p>
座長	<p>ありがとうございます。私もいろんな自治体に関わらせていただいておりますが、</p>

【令和5年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

	<p>このようなアンケートを取っているところは、そんなにはないのではないかというのが、私の実感ですが、何かご存じですか。こういうアンケートを採っている自治体さんが広島県内にはありますか。</p>
委員	<p>自治体によって採っているところはありまして、経年的な動きを知りたいということで、何年かに一回、長く見るためのアンケートを取っているところはあります。</p>
座長	<p>すべての自治体が取っているということではなくて、そこも1つの特徴かなと思って見ているところがあります。回収率に関して言うと、いかに江田島市さんがされていることを市民の方に知っていただくかということは、重要な課題としてずっと出ているかなと思っていますので、そこは非常に大切にしていってほしいなと思っています。回収率に関して言うと、我々もアンケートを採りますが40%いくと、ありがたいなというところが正直なところありまして、回収率としては、そこまで悪くないと思っています。先ほど出ましたように経年変化ということだと、なんらかの指標があるほうが、批判するにしても、あると助かるので、そのような継続的な何らかの数値はあると助かるなというのは私自身が思っているところです。ただ、今ご指摘がありましたように、知らない中でということがありますので、いかに知ってもらうかという努力は、江田島市役所さんに努力いただきたいと思っています。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。</p>
委員	<p>資料をいただいて、私は子育て世代と真ん中で、子どもが5歳3歳1歳で3人いるので変化の大きいポイント、基盤についての公園緑地の整備とか、保育の子育て支援サービスの充実については、奥さんにこの数字を見てもらったうえで聞いたのですが、これは無作為抽出の2,000名、全世帯とか全数調査ではないので、そこまで事細かにわからないと思いますが、地域別や年代別の詳細は出るものですか。</p>
事務局	<p>細かい集計は手元に持っていませんが、もともとアンケートで住所別で捉えることもございますので、今すぐその数値がどうかというのはお答えできませんが、分けて集計を採っているのは現実です。</p>
委員	<p>先ほどおっしゃっていましたが能美町や江田島町、大柿町は認定こども園が新しくなり、かなり施設も充実していると思いますが、私は沖美町三高に住んでいて、公園が1つもないんですよ。切串や三高はフェリーが着くので、かなり広島市内へのアクセスもいいと思いますが、移住者等を増やそうという考えにあたって、公園がないとか、切串も三高も、特に人口が減っている地区です。そういうのも含めた上で、公園の整備もなくて、このアンケートを採って世代別地域別に分けたとしたら、その満足度はかなり低いのではないかと思います。うちの奥さんは3人目を妊娠中に、昔からある古い公園の砂場がカチカチで、妊婦でおなか膨れた中、スコップで耕していました。というのを見て、かなり行政にも言わせてもらったのですが、事細かに地域別に行くのか、それとも重点的に子育ては能美とか大柿とか江田島に固めていくのか、そういう将来像というのにも必要かなと思います。</p> <p>僕の友人が江田島市に移住しようとして、今から5年前くらいに来て、うちの</p>

【令和5年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

	<p>地元の沖美町三高を見て、公園もない、遊ばせるところもなくこれは無理と言っていました。家を実際、東広島市西条に買ったのですが交通費は西条と広島市内を行き来するのと三高と広島市内を行き来するのは変わらないんです。船の値段と電車の値段、土地は、どちらかという、こっちのほうが安い。なのにそれでも向こうを選ぶのは、かなり僕ら子育て世代からしたら、そういう公園整備、緑地整備、子育て支援とか、身の回りの環境が、まったく整備されていないという地域も江田島市の中にはあるので、この先の移住者促進とか定住促進に向けるのであれば、もうちょっとバランスよく、重点ポイントを置いて、そこに固めるのか、それともバランスよく4町、各地区にするのかという方針もある程度、決めたほうがいいと思います。今のままだと江田島市を紹介できないです。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料3の13、(1)重要度ポイントのイの変化の大きな項目ということで、市民の皆さんのアンケート結果では公園緑地の整備は重要であるという結果となっています。右側の(2)満足度ポイントのイ、変化の大きい項目で満足度ポイントについては公園緑地の整備はマイナス1.5ポイントで前年度最下位になっています。ですからこの結果も、地区別とも言わず、全体としても公園緑地の整備については重要であると、しかも満足していないという結果が現れているので、そういった部分は、この資料も有識者会議だけではなく、うちの幹部会議にも諮ったうえでご存じいただいています。実際に都市整備課が令和5年度から各地区に公園整備についての協議を、今私が聞いているのは江田島町北部の切串地区、沖美町沖地区の岡大王の辺りだったと思いますが、順次それぞれ公園に関して皆さんの意見を聴取する作業を開始されています。各地区に、今度聞いていくと伺っていますので、またその際には、お願いできたらと思います。まずは地区の皆さんにそれぞれ公園の扱いについて、意見を聞いて回っていると聞いていますのでまた来たときにはお願いします。</p>
<p>座長</p>	<p>ありがとうございます。いずれにしても世代別地域別のデータがありますので、それは市役所の中で整理されて、必要に応じて議論していくべきことですし、必要に応じて公開していかなければいけないことかなと私自身思っています。今指摘された問題は、バランスよくいくのか、それともどこかに集中するかという話は、各所でコンパクトシティみたいなかたちで集約するという議論も今出ていて、例えば私は庄原市も関わっていますが、広い地域で、どういうふうに、まちづくりをつくっていくかは非常に重要なところで、市全体の方針として出てくるのかなと思います。庄原市は10年前にコンパクトシティをうたいましたが反対が強く、それは断念しています。また今、コンパクトシティが出ていますが、ここは本当に財政の問題を含めて重要なところで、ぜひ広いところでしっかり議論していかなければならないと思います。それこそ江田島市さんが、どういうふうに将来していくかという重要なポイントかなと考えていて、非常に重要な点をご指摘いただいたかなと思います。ありがとうございます。他にございますか。</p>
<p>委員代理</p>	<p>私は百姓をしていて、例えば農地の関係について、どう捉えるかという非常に大事だと思います。ところが担い手を含めて跡取りがないので江田島市の農地は、みな山に戻っているのが現実です。重要度は大事なのですが、実際それが満足になるかという私の評価は最低です。農業政策は何もできていないというくらい、みな山になっているのは民地、という見方になります。この市民満足度</p>

【令和5年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

	<p>調査も、ひとことでは満足度 70%なんていう高邁な目標を立てるべきではないというのが私の個人的見方です。自治体等の活動を通じて思うのは、本当にこの先 20 年 30 年とコミュニティが維持できるのかというようになるのが、江田島の未来だろうと思っています。というのは、たった 2 万人余りしか住んでいないのに、周辺の総延長距離を車で走れば 100 キロくらいあるような、広大な地域です。そういう中であって、これがあと 10 年たって 5,000 人減って 1 万 5,000 人程度になり、20 年後にさらに減ってと考えると本当に今のコミュニティが、人間が住める地域として維持できるかということも含めて、市は基本政策を立ててもらいたいと思います。満足度調査の受け止め方が非常に難しいところを、分かってもらいたいと思います。</p>
座長	<p>ありがとうございます。自分の専門とかご職業から見ると、この値とは違う部分も出てくるかなと思います。このあともう 1 つの議題に入って、そこでまた専門的な立場からご指摘いただくのかなと思いますが、そことも関連してくるようなご指摘が出てくるのかなと思います。いずれにしても人口減の中で、どういふうに生活を維持していくか、地域をうまく残していくということも議論されたり、八掛けということも考えられているということですので、いずれにしても江田島市さんだけではなく、日本全体で重要な課題として出ている問題です。</p> <p>ありがとうございます。続いて第 2 期人口ビジョン総合戦略進捗管理についてご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>「第 2 期人口ビジョン・総合戦略の進捗管理について」【資料 3】 ※ 内容は、資料 3 のとおり</p>
座長	<p>ありがとうございました。たくさんのところを一度に説明していただいたので少しわかりづらいところもあると思いますが、ここでは、皆さまからご意見をちょうだいしてまいります。</p> <p>基本目標 I プロジェクト 3 「①新たな宿泊観光関連施設の整備」に関して、江田島市の観光に関する現状、また今後の課題について、市観光協会の委員からご意見ををお願いします。</p>
委員	<p>事務局から、観光の現状・課題について発表してくださいとありましたので、観光協会の立場から、観光の現状を報告させていただきます。江田島市への観光客数は、コロナ前の人数には到底追いついておりません。目標の観光客数 100 万人に、まだまだ遠い現状です。今年度も 40～50 万人の見込みであろうと思っています。今後官民協力して、さらなる誘客活動の取り組みが必要だと考えていますので、よろしくお願いたします。</p> <p>課題ですが観光客数の増加はもちろんですが、同時に観光素材である宿泊は、色んなかたちで少しずつ進捗していると感じていますが、飲食、物販機能を強化して、観光消費額を上げなければいけないです。儲かる観光ということで、新たな取り組みが必要だと考えています。これも皆さまのご理解が必要でございますので、今後ともよろしくお願いたします。観光協会としては、いろんな課題、それに前向きに取り組んでいかなければいけないという思いですので、よろしくお願いたします。</p>
座長	<p>ありがとうございました。続いてまいります。それではプロジェクト 1 「③創業者支援」について、現在の創業者の傾向について、広島県または管轄の範囲で</p>

【令和5年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

	<p>もよいので、お話できる範囲で金融機関の目線で教えてください。金融懇談会の委員代理からご意見をちょうだいできますか。</p>
委員代理	<p>創業支援者数のKPIが、令和3年度から江田島市さんで、毎年4件と掲げてこられて、毎年度実績を大幅に上回っている実情を把握できました。その中でも飲食業や宿泊業を中心に店舗が増えてきている流れの中で、弊社として大変申し訳ないのですが、江田島市の中での創業者の方にまだまだご支援が足りていないという、反省すべき点があると強く感じています。広島県で見ると、創業者の数は、大体この9年間の平均で毎年2,000件の新規創業があるという数値が出ています。当然、コロナの後、2,000件を割ったところもありますが、ほぼ平均して2014年度から2,000件をオーバーしている状況です。隣県、岡山県と山口県で見ると9年平均で、岡山県が1,527件、山口は974件で、両県も安定的に創業者が増えている状況です。業種別で見ると、昨今キャッチーになっている情報通信関連、ソフトウェア関連、そういった業種が一番割合は多いです。その次にビジネスサービス業、いわゆるコンサルティングなどをする会社、広告美術関係といった業種が多くなっています。続いて消費サービス、江田島市さんでもあるような飲食、そして宿泊、レジャー関係、小売りなどが続いています。</p> <p>皆さまもご存じのとおり、広島県の取り組みとして2023年から、広島地域イノベーション戦略推進会議を立ち上げています。その中に広島銀行も加わって、広島県のスタートアップを育てていこうということで「ひろしまユニコーン10」という言葉を聞かれたことがあると思いますが10年でユニコーン企業を10社創出しようという、広島県でのKPIが掲げてあります。やはり江田島市のことで考えると、入り口の部分、我々も含めて創業意欲のある方に対して、地域全体で環境の整備や我々のような金融支援をすることで、就業の機会や場所、魅力ある企業、江田島市は多いので、そのような人材の獲得につなげていけば、冒頭にありました、座長からありましたように19歳から40歳までの女性の転出が多いということでしたが、そういったところの転出の防止にもなっていくのかなと思いますので、今後も創業については、もっともっと弊社としても、関わりをもって江田島市を盛り上げていきたいと思っています。</p>
座長	<p>ありがとうございます。続いてプロジェクト1の「④新規漁業者研修制度の活用」、プロジェクト2の「えたじま牡蠣のプロモーション強化」について、江田島市の漁業者の現状と所得の向上に取り組む場合には、どのような課題があるのか、ご意見をちょうだいします。市漁業振興協議会の委員、よろしく願いいたします。</p>
委員	<p>漁業を取り巻く環境も非常に厳しい部分があります。水温の上昇によってカキの「斃死」が増え、鳥インフルエンザなどにより、カキ殻の需要が減って、堆積場が満杯になり、それをどこへ持って行くかの問題も出まして、カキ殻の養殖業者は、今年は大変困った年です。放流事業に関しまして、カサゴは確かに効果があってみんな喜んでいます。問題はカワウによる影響により昔のような海に戻っていません。カワウ退治も重要だと思います。また、海で働く若い後継者があまり育っていない、これが重要です。これをどうにかしないと、江田島市の漁業はつぶれるような気がします。皆さんも協力をよろしく願いいたします。</p>

【令和5年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

座長	<p>ありがとうございました。それでは、プロジェクト1の中「⑤新規就農者研修制度の活用」について、新規就農者を増やしていく上で、江田島市における農業の現状と、新たに農業を始める、もしくは江田島市で農業を始める際の課題やアドバイスの部分について、市農業委員会の委員からお願いします。</p>
委員	<p>まずは事実だけ申し上げます。新規就農者制度ですが平成24年くらいから始まって現在まで、約12名がこの制度を活用していただいています。しかしながら現実に就農し、今、営農している方は半分です。12人の中も含めてですが、ほとんどが施設野菜、江田島市はキュウリの産地ということもあって、キュウリが大半です。あとの12人の半分と申しあげましたが、後ははやらなかつたり、離農したりしています。</p> <p>次に研修制度です。研修制度を簡単に申しあげると、研修中に研修生の生活費の助成をしてあげるとか、研修が終わったあと、特に施設であればハウス代を手当してもらえとか、研修制度を受け入れてくれた団体へ助成をするものです。にもかかわらず実際に就農者、農業者が増えていません。先ほどの話、漁業も一緒ですが、農業の場合も、全国的に農業者が減り、就農者が減っている状況です。どうするかということで、主要な産地は外国人研修生を利用しているということです。私も行きましたが、例えばレタスは長野県川上村とかキャベツだと孺恋村とか、ああいったところで朝3時くらいからサーチライトを照らして収穫しています。それでスーパーなどに朝7～8時くらいに届けるようにして店頭並べます。そういった中で、とても日本人ではできないので、研修生を雇ってやっているのが実態です。これも漁業もある意味で一緒だと思います。日本人の農業者がなぜ増えないか、我々もいろいろずっと検討していますが、ひとことでいうと所得がないからです。農業にとって所得は、十分条件ではないけど必要条件。最低限、子どもを大学までやらせるだけの所得が今の農業の現状の中では難しいということで、所得がないのが一点、次に労働がきつい。条件のいいところは機械化できるので、ある程度継続は進んでいます。ただ、例えば江田島市のような島嶼部の傾斜地はどうしても機械化等による、軽量化には限界があるので、品目によっては水田のような機械化は進んでいるけれども、果樹や野菜等については、まだまだ機械化が難しい状況です。1つの事例ですが20年くらい前、全国でも有名なあるキャベツの産地では、20年くらい前に所得で1,000万以上稼いでいるところは、ざらにありました。でも嫁さんが来ない。なぜかという、当時はまだ機械化できていなかったので、キャベツは重いんです。1箱に4～5つ入れますが10～15キロくらいあり、それを何百個も手作業でしなければいけない。所得があっても軽量化が進まないと、嫁さんが来ない現実が、20年くらい前にはざらにありました。江田島市では、果樹の場合、ほとんど機械化できていないので、将来的に非常に厳しいのかなと思っています。農業がまず、所得は必要条件だけれども十分条件ではないということをお申しあげました。次に職業として農業を選んでもらうためには農業が魅力あるもの、所得以外の他の産業にない農業の魅力を、発信しなければいけません。これはオールジャパンで、国なりが進めていくべきであろうと。その中で江田島を選んでもらうためには、江田島でも何かのアピールをつくらなければいけないと思いますが、なかなか見つからない状況にあります。今我々もそういった中で、行政にいろんな提案をしながら1つ1つ今や</p>

【令和5年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

	<p>っているところですが、まだまだこの趨勢に対して、あらがうべき方策が見つかっていないのが現状です。</p>
座長	<p>ありがとうございます。要望ということでご説明をいただきました。続いてプロジェクト4の「①若年層への市内企業の紹介や就職情報の提供」について、求職者も事業者もそれぞれの活動を行われていますが、江田島市または管轄における求人求職に係る傾向は、どのような状況にあるのか、また、若年層の最近の主なニーズについて、呉公共職業安定所の委員からご説明をお願いします。</p>
委員	<p>江田島市の求人倍率ですが就業比率、働く場所の求人倍率がありまして、江田島市だけで抽出すると、直近が令和6年1月の数字ですが1.77倍と1倍を上回っています。広島県の平均を見ても1月は1.74倍でしたので、決して悪い数字ではない、仕事はあります。求人が求職を上回っている状況が、コロナ明け以降ずっと続いています。江田島市内の求人の職種の傾向は、販売サービス、介護、看護職の辺りの求人が比較的多いです。もちろん先ほどから話しが出ている食品製造の求人や、製造関係の求人など、多様な求人を受理している状況です。</p> <p>一方で、ハローワークを利用される新規求職者の傾向を年齢別に見ると、これは江田島市だけではなくて広島県の傾向で、これは全国にも当てはまりますが、令和5年度の傾向を見ると、フルタイム希望者では45歳以上のハローワークに申し込みをされる方は、増加傾向で、逆に45歳以下の層のハローワークへの新規申し込みは減少傾向にあります。これは全国のハローワークも似たような傾向で、大きいハローワークも一緒です。原因の1つとしては、去年もこの会議で言わせていただきましたが、若年者の方は仕事探しのツールがかなり多様になっており、いろんな事業者の参入もありまして非常に手軽に仕事探しができるツールが増えているという、その点も大きいと思っています。これは反省点でもありますが、例えば大学卒業時点の就職活動においては、基本的にまず学校のキャリアセンターや、民間の就職情報提供サービスを利用して就職活動をされる方が多いと、今の若年層はハローワークを知らないとか、ハローワークの活用のしかたがよくわからない方が一定層、いらっしゃることも1つ原因かなと思っています。江田島市でどうしていこうかということで、来年度の検討しているところですが、今でも月1回巡回相談ということでハローワークから江田島市に来させていただいていましたが、それをもう少し拡大して、江田島市民の皆さん向けの仕事探しの相談会を試みとしてやってみようと、出張ハローワークみたいなかたちで、こういうのを江田島市と連携し、毎月実施していきたいと考えています。内容としては江田島市の求人を基に、個別相談や、若者は特にそうですが応募書類の書き方や、面接のアドバイスなど、ハローワーク呉まで来所いただかなければできなかったサービスを、江田島市で実施してみようと試みており、会場はゆめタウンさんの一角をお借りしてできればと考えています。江田島市とゆめタウンは連携協定を結ばれていますので、そこをフル活用させていただいて、実施していきたいということです。外から人を呼び込むのも当然大事ですが、江田島市にお住まいの方の中で、まずは働きたいけど、探し方とか就職活動の実践、方法がわからないとか、そういう方をまず支援していきたいということ、江田島市内の企業さんも、人手不足・人材不足と確保に苦労されているというのはありますので、そこをつ</p>

【令和5年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

	<p>なげるのを、来年度5月以降になります。力を入れていければと思っています。</p> <p>あとは1つ、最近若年者の傾向としては、かなり多様化が進んでいる、働き方改革というのが言われてもう長くなりますので、昔のように大企業に入って、バリバリ働くのも1つの選択肢ですが、そうすると転勤がある、残業もあるのではないかと。そういうのを考えたら、もう少しそういうのがないところ、1カ所で働きたいとか、ニーズはいろいろ変わっていますので、そこをうまくつかめれば、1つの地域で働きたい方も来てもらえるかなと思っています。</p>
<p>座長</p>	<p>ありがとうございました。続いて商工業者の状況等、仕事と求職者のマッチングも含めて、市商工会の委員からお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>商工会から実例として、従業員が10名以上の事業所3社に、求人についてマッチングの実例を聞いてきました。今、求人に対してはハローワークを利用したり、人材紹介会社、職員からの縁故採用、自社で無料のウェブのプラットフォームをつくってそこに求職、求人の仕事を探している人が情報を書き込んでネット上の面談をして、そのあと電話面談、直接会って面談、そういう段階を踏んで離職を避けるところが実例としてあります。その中でも最近若い人の多様化、職業の選択肢が増えたことで人材紹介会社を利用される方もいますが、そこには年商30%の手数料がかかるそうで、かなりのリスクがあるので、できればしたくないということも同時におっしゃっていました。江田島の求人をされている事業所は、ほとんど消費サービス業や介護職がメインだと思いますが、今、働いている方は、ほとんどが縁故採用、職員さんの紹介、近い家の親戚に働いてもらうというのがほとんどです。ハローワークとかご利用されていますが、本音はどうですかと言えば、江田島市から大学とか市外へ出て、帰ってきた江田島市出身者の方をできれば少しでも高い給料で雇いたいというのが、願望としては、皆さんにありました。この中で、全員おっしゃっていたのが、江田島市役所、銀行などに繋いでいただいて、集団説明会とか、コロナ前は実施してたと伺っています。まず若い人が江田島市の事業所が求人を出していることすら知らない。コロナの前からも含めて数年に一度、中学校で「事業をやることについて」と講演をさせてもらうのですが、中学校3年生に聞いても、うちの事業所と言えば80年以上やっているのですが、まだ知らない人がいたり、江田島市の中では大手、10人以上の従業員社員さんがいるところも知らないとか、そういったところがアルバイトを募集していることも知らない。現状学生が江田島市にこういう事業があって、こういう事業所が人を雇っていて、求人を出していて、こういうところが今広島市内とか、全国にどういう商品を出していることすらも知らないし、興味がない。中学生に事業をしたいかどうか、社長になりたいかどうか、単純的な質問をしても、そこに願望がない。サラリーマンになりたいという意見なので、その考え方を少しずつ正すというか、説得しながら話していますが、実際学生さんが江田島市に残って江田島市で働こうという願望が、そこにはないです。その原因が親から江田島は仕事がないとずっと聞いて育ってきた。江田島は何もない、仕事がないけど、マイナスのことばかりずっと聞いて育ってきたと。なので、そこにまず、江田島で働くことにアンテナを張っていない、というのが現状であるのかなとよく商工会の青年部員の中でも話しています。青年部としても事業所紹介の冊子をつくっ</p>

【令和5年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

	<p>たり、今年から動いています、一番手っ取り早いのは集団説明会とか事業所説明会、こういう仕事があるよと現役の学生、中学生・高校生に向けて、もっと行政官民一体で動いていたら、商工会には創業塾がプログラムとしてあるので、活用いただきつつ、補助金体制について、江田島市はしっかりあるので、全てをつなげていけたらいいのかなと思います。江田島市自体が、現状として5～10年前より従業員さんが2～5人でもいる事業所は、廃業している所が多くて、個人事業主がかなり、移住者の方が創業しても増えているのかなと思います。移住できて1～2人、60歳～70歳で、老後のちょっとした楽しみで、事業をやるといのが増えています。青年部員さんも実際、従業員さんがいる事業所より個人事業主がほとんど、30人部員がいて、そのうち8割くらいが1人でやっています。これが10年くらい前までは半分以上は従業員さんが5人～10人以上いる事業者さんばかりだったんです。ただ、今いう従業員さんが少ない事業所でも実際、求人は出しています。人は欲しいんです。うちも今、1人でやっていますが、人は欲しいんです。ただ、集団説明会をするにあたって、正社員を基本的に考えます。そうではなくて、アルバイトでもいいと思うのです、高校生とかでアルバイトの求人でも一緒にやっていいと思います。仕事はあるよ、仕事を求めているよというお金のサイクルを、もっとつくって、人もお金も動かしていけば、税収や商品のブランド価値をどんどん外に出していける機会も増えますし、生産量がちょっとでも上がれば、農業も漁業もそうだと思いますが、生産量をとにかく上げる。サイクルをつくるにあたっては、正社員についての説明会も大事ですが、アルバイトの説明会も一緒に行っているのかなと思っています。商工業のマッチングについては、そのような感じです。</p>
座長	<p>ありがとうございました。基本目標Ⅱに関する部分で、移住定住についてですが、人の流れなど、江田島市の移住に関する動向は、どのような状況となっているのか、今日は市交流定住促進協議会の委員が欠席ですが、事務局で聞き取りをされていますので、ご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>事前に市交流定住促進協議会の委員からご意見をいただいていますので、ご報告させていただきます。昨年度に比べて実績値が減少した原因としては、地方回帰志向が落ち着いてきたのが十分あり得ると思います。捉え方として実績値が減少したというより、昨年度が異常に多かったという見方もできます。移住相談者が江田島を選ぶ理由は、次のことが挙げられます。1つ目がまちから近くインフラがある程度整っている瀬戸内海の島という環境、2つ目、空き家バンクが充実している、こちらは「hodohodo」という定住専用サイトがございますが、そちらの評判が高い。3つ目、自己実現をかなえてくれそう。いろんな人が移住してやりたいことを実現している。4つ目、メディア露出が増えている。今年度は露出が少なかった気がしています。課題感として財政が厳しく実績を伸ばすための積極的な施策展開ができていないということ、その中で昨年度は、江田島暮らしイメージツアーを実施して参加者6組中2組が移住する成果もありました。江田島市全体を見ても人口は減り続けており、とりわけ老年人口に対する若者子育て世代のバランスの悪さが問題です。島根県隠岐諸島では海士町をはじめ、限られた一般財源の中、国の事業を積極的に活用しながら、さまざまな施策を展開して人</p>

【令和5年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

	<p>口増を実現しています。昨年「フウド」にインターンに来た学生も、東京での就職活動中に隠岐諸島の新卒採用に魅力を感じ就職移住することになりました。移住政策は江田島市の将来に、もっとも大きく影響を及ぼす分野の1つです。コロナ禍の地方回帰ボーナスが過ぎ去った今、先進事例を参考にしながら思いきった施策を展開していくことが望ましいという意見をいただいています。</p>
<p>座長</p>	<p>ありがとうございました。続いて、基本目標Ⅲ プロジェクト2の「郷土でしっかりと学ぶ」について、新型コロナウイルス感染症が収束し、児童・生徒の学校での過ごし方も変わってきたと思います。小中学校のお子さんがある子育て世帯の方から、江田島市の教育環境に関して、よく聞く意見などあれば、伺いたいと思います。この部分は市PTA連合会の委員代理からご意見を伺います。よろしくお願いたします。</p>
<p>委員代理</p>	<p>一番上の子が小学校に入ってから、一番下の子が中学校を卒業するまで17年あって、いよいよこの4月からラストが1年となりました。その間、17年のあいだで12回ほどPTA会長を仰せつかって、こんな雰囲気会議も何度か出させてもらいました。今思うことは江田島市の皆さま方から、例えばバス代、給食費、そして学校の設備等に関しては、すごい手厚くしていただいていると思います。特に今、小学校、中学校もそうですがデジタル化がかなり進んでいます。デジタル黒板、またはタブレット等を使った授業は、たまに参観日に行っても、こんなことをしているのかとびっくりする内容で、これが当たり前になっていくのかなと。当たり前になっていくには、それだけの設備が整っていかなければ、江田島市の児童生徒が置いていかれてしまう世の中になるのかなと感じています。その辺に関しては、ありがたいなと思っておりますが、今子どもが中学に入って思うことは、江田島市内に4校ありますが、それぞれ、例えばプールがある学校は1校、照明がある学校は1校です。プールのない中学校は、どのようなプールの授業をしているかというところ、水のないところで泳ぎ方の練習をするのです。それで泳げるようになるのかなと思っておりますが、それは授業の1つとして水のないところで泳ぎの格好をする。プールのあるところはプールの授業がある。照明のある学校は、夜も冬であっても照明を照らして、おそらく部活をしていると思っておりますが、照明のない学校は実際、準備と片付けを考えたら部活の時間が30分くらいしかない状況にもなっています。これは、もう急に変えられないことだと思っておりますが、同じ市内の中でも、かなり差があるなという気がします。小中学校を考えるとデジタル化が進んでいるとは言いながら、私が思うに図書室の充実を、もう少し考えていただければと思います。江田島市にも図書館があって、そこには図書館司書がおられると思っておりますが、そういう方に、ご指導をいただいて本の配置、本の内容を指導いただくだけで、その学校の図書室が、生き返るのではないかと思います。ただ本が置いてある場所ではなくて、利用しなければ、せっかくのスペースが無駄なスペースになってしまうと思っております。あえて要望するならば江田島バスさんの手厚い補助金とかがあって、クラブの遠征でも、かなり安い金額で行けているのは確かなので、バスを利用した授業があればなと思っております。実際、小学校へ入る前の年齢のときには、ミルク代やおむつ代など、たくさんお金がかかっています。国もその年代に力を入れている雰囲気はありますが、お金がかかるのは、</p>

【令和5年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

	<p>高校生、大学生です。この辺になると、もう本当にお金が必要となります。その辺のところ、まだ江田島市では、例えば医療費に関しても厳しくなっているのではないかと思います。限られた財政ですので、みんなが協力していかなければならないし、どの年代も大切な年代です。人口が減っていくという様々な問題の中で、今の私の立場からいうと、高校生・大学生は、かなりお金がかかりますので、そこも何か補助することができるのであれば、お願いしたいと思います。</p>
<p>座長</p>	<p>ありがとうございました。続いて広島県健康福祉局子供未来応援課の委員から国や県における、子育てに関する動向などの情報提供をお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>子ども子育てに関して国や県の動きを共有させていただきます。国は昨年12月にこども大綱ができて、今後の子どもに関する施策の方向性等を示したものが出されています。中身は、かなり幅広になっていて、少子化対策から若者の引きこもり、ジェンダー平等の教育、貧困対策や子ども若者にかかる、あらゆる施策が、ほとんど大綱の中に示されているものになっています。それは考え方や方向性ができるのですが、同時に12月に子ども未来戦略が国で決定されていて、これは今後3年くらいで具体的に取り組んでいくものを記載しているものです。中身は報道等にも出ていますが児童手当の拡充、こども誰でも通園制度の開始、先ほど大学の話でありますと3人扶養しているところは授業料減免無料という話や育児休業の給付金拡大等、実際に金銭面を含めて何をやるかが、子ども未来戦略に具体的に書かれています。実際に法律の改正も、国会で審議されていて、それぞれ児童手当は令和6年10月から、こども誰でも通園制度は本格的には令和8年4月から、開始時期は色々ですが具体的な支援の動きが徐々に出てきている状況です。</p> <p>県としては、人口動態の話がありましたが、少子化子育てに関しては、不妊治療への支援や安心感の醸成につながるようなネウボラ構築、保育環境、質と保育園自体の場所と質の整備、働きながら子育てしやすい環境整備等を、色々やっていますが、人口減少には歯止めがかかっていない状況になっています。なので、これから何をしていくか、これまでも継続的に検討していますが、来年度、県で現在つくっている「ひろしま子供の未来応援プラン」を来年度改定する時期になっていますので、改定作業の中で、更に今後5年間何をするかは、様々なところでご意見をいただきながら、つくっていきたくと考えています。来年度、具体的に何をやるかという話になると、先ほどの不妊とかネウボラの話もありますが、共働き世帯が増えているところや結婚、出産しても仕事を継続していきたいという方が一番多くなっています。とはいえ、家庭の中では女性のほうに家事育児の負担が偏っているところもあって、それが原因で、なかなか子どもを持ちにくいご意見があることも事実ですので、家庭の中での男性の家事育児への参加の促進や、国でも異次元の少子化対策、経済的負担が大変だと、子どもをもつと経済的にしんどいとか、子どもを育てること自体が、なかなかしんどいという若者へのアンケート結果等もありますが、子どもをもつこと自体は、言うなれば楽しい、子どもをもつことで非常に世界が広がり赤ちゃんの笑顔を見るだけでも幸せな気分になりますので、子どもをもつ、育てることのポジティブなイメージをなんとか社会全体にも再び伝えていきたいということは、来年度やっていきたいと思っています。</p>

【令和5年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

	<p>江田島市でも「子ども・子育て支援事業計画」が来年度、改定になると思いますし、県のプランとその辺りの連携をとっていきたいと思います。経済的な負担ですね、先ほども高校・大学の負担が大きいというのがありました。財源の話もしていただきましたが、財源はどうしても限られたものがある中で、どこに重点的にやっていくかは、それぞれのお立場、それぞれの環境で、いろんな意見を皆さんお持ちだと思いますので、県もできるだけいろんな方の意見を聞きながら、何をやっていくかは来年度考えていきたいと思っていますところですよ。</p>
<p>座長</p>	<p>ありがとうございました。最後に4枚目の基本目標Ⅳ 元気に暮らし続けられるまちをつくるについて、伺いたいと思います。</p> <p>プロジェクト1の「②A Iを活用した健診受診勧奨」及び「④がん検診・生活習慣病健診等の推進」についてです。江田島市において、目標値に設定している国民健康保険の特定健診と子宮頸がん・乳がん検診などの受診率向上に、今年も苦慮されており、昨年度と比較しても数値が下がっております。</p> <p>一方でプロジェクト1「③介護予防に関する意識啓発コンテンツの作成」について、「えたじまん体操」のDVDが完成し、百歳体操のグループに配付し、配布枚数は、計画値を大幅に更新する1,250枚になったと伺っています。</p> <p>昨年度に引き続きになりますが、市自治会連合会の委員代理に、市民の方の健康診断に対する意識は、どのような状況と思われますか、普段の暮らしの中で、聞いたことや、お気付きになる点があれば、教えてください。</p> <p>併せて、地域で行われている百歳体操により、地域の皆さんからどのような評判があるのか、分かる範囲で良いので教えてください。</p>
<p>委員代理</p>	<p>4番目の「元気に暮らし続けられるまちをつくる」という項目の資料の中に、国保特定健診の受診率が30%、DVD配布枚数について目標100枚に対して1,250枚という大きな配布枚数、実績として挙げられています。この関係について地域で活動する者として感想を申しあげたいと思います。</p> <p>まず健康診断ですが、国保の特定健診受診率がわずか30%ということについて私はまったく心配していません。これは無料であって、なぜ無料検診なのに、こんなに低いのかという疑問は残りますが、まったく心配することはないと思います。他の人がどうして受けないのか、これはうかがい知ることができませんが自分自身に置き換えて考えてみると、私はヘビースモーカーで10年前に肺気腫の恐れがあるのでタバコをやめなさいと言われて、それ以降、まち医者にずっと1カ月ごとに薬をもらいにいっています。わずか2～3分の受診ですが、まち医者にずっと1カ月ごと、薬を継続してこの10年もらっていますが、そうすると、薬をいただく前に、血圧の測定や尿検査、血液検査を2～3カ月に1回、まち医者がやってくれます。もちろんお金がいますが、そういうことがあり、かつ半年に1回、CTまで撮って状況を把握してもらえるので、こういうのも現に通院時にやっている人が高齢者を含めて多いがゆえに、わざわざ健診にいこうという意欲がわからないのではないかと考えています。基本的にがん検診とかは一部有料の検診ですが、今、がんで死ぬ時代ではなくなっていることは、それぞれの市民の方は必要に応じて、そういう検査を受けて早期発見ができていないのか、ほとんどがんは、治るという時代になっているのではないかと考えています。</p>

【令和5年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

	<p>DVDの関係、健康づくりですが100歳体操というのが、なんと江田島市内、31の単位自治会があるのですが、そこに70を超えるグループが結成され、能美町の例でいうと鹿川、中町、高田の3地区で自治会は構成されていますが、100歳体操のグループ申請数は10を超えていて、1地区に少なくとも3カ所以上、自分の家から歩いて行ける範囲のところに、グループが存在し、週1回、月何回という取り組みで、100歳体操が展開されています。このトータル人数は、莫大な人数になろうかと思いますが、それが非常に功を奏して、単に体の健康だけではなく、会えば一緒に、いろんな話ができるという、心の健康を含めてこの100歳体操を推進する中で、ずいぶん心と体の健康づくりに役立っていると思います。しかもそれがポイント付与、これは県の施策の1つかもしれませんが、そういうことも含めて楽しみながら取り組んでいるところがあって数字に表れているように、この4の項目に関しては非常に江田島市の取り組み全体として、いいものがあるのではないかと、地域の者として感じています。</p>
座長	<p>ありがとうございました。さまざまな立場からご意見をいただいたところですが、時間の関係もあるのでたくさん議論できないのが事実ですが、もし今出していたいただいた意見以外に、ご意見があればちょうだいしたいと思います、いかがでしょうか。</p>
委員代理	<p>「基本目標Ⅰ～Ⅳ・想定人口効果 計」で、令和5年度実績見込数172.54人という数字があります。計画値は118.94人に対してプラス53人ということですが、1ページから4ページと通じたトータルとしての数字が出ている、この意味について聞かせていただきたいと思います。172人プラスは人口動向に対して、この数字が全体を通じた取り組みの結果、プラスに作用したという受け止めになる数字ですか。</p>
事務局	<p>想定人口効果という言葉を使わせていただいています、それぞれの事業で過去の実績とか経験値に基づく仮説で数値を基に算定させてもらっています。ですから感覚的な要素を含んでいる部分もございますが、あくまでも、この戦略におけるKPIの進捗効果を管理するための仮定値で数値を表しています。この部分については、それぞれの事業を行うことによって、どの程度の人口の効果があるかということで、それぞれ計算して、目標値に対して、この数値が実績見込みであったり、前年度、前々年度の部分については実績値の見込みということで、数値上の目に見える効果ということで考えた計算式によって、実施しているものとなっています。</p>
座長	<p>これはオリジナルで、私自身もここに来たとき、非常にこの数字は面白いなと思って見ていたところもありまして、そのまま人口動態に反映するかというと、もうちょっとそこはずれがあるかなと認識しているところですが、それでもこういう風に実際に数で出ると、もうちょっと頑張れば、人が出てくるのではないかと、このところの、動機付けになっているかなと思って拝見しています。</p> <p>今、皆さまからご意見をいただいた中で、非常に重要だと思ったことは、1つは知ること、特に若年層の方に江田島市の就職、仕事の状況も含めて知っていただく機会が非常に重要で、若い人を江田島に魅力を感じてもらううえで、必要ということは痛感したところですので、その取り組みをぜひやっていた</p>

【令和5年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

	<p>だきたいということ、何度も出てきましたが、もう1つは育てやすい、イコール働きやすいという環境をつくっていくことが大事で、これは皆さんが色々なことをやっていますが家事育児について女性の負担がかかっている状況は実際にありますので、そういうことも含めて、どういうふうに変えていくかが、大事なかなと思っています。調べていくと、男性だけの大きな会社の役員だけのところは、非常に女性が残っていかない、働きづらい環境もありまして、いかに女性の管理職を増やしていくか、発言していくかという所も非常に重要になっているところがあります。それによって職場の環境が変わっていくことが、実際に行なわれているので、そういうことも含めて働きやすく、かつ、生活しやすいことを目指していくことが必要だろうなと思っています。それが人口減や働く人が足りないことについても、大きなインパクトをもつだろうと思っています。その対策についても頭に入れながら施策を一層、進めていただければいいのではないかなと思っています。外部から来ていただくにしても、そういうところが大きな魅力になっているのは、間違いないと考えているところです。</p> <p>最後になりますが令和4年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の効果検証について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(4) 令和4年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の効果検証について【資料4】 ※ 内容は、資料4のとおり</p>
座長	<p>ありがとうございました。こういう交付金が出て、なんらかの効果があつたことを確認することになります。何かご質問・ご意見はございますか。よろしいですかね。これについては生活の実感の中で、なんらかのかたちで、いろんなことが行われたと感じとられている方も多いかなと思いますので、そういうところで効果が一定程度、あつたということで、取りまとめておきたいと思います。ありがとうございました。</p> <p>以上で、本日の報告協議事項は終了しますが、先ほど言い忘れたことがありまして、特に子どもの部分では公園であれ学校、照明があるところとプールがあるところと、いろんな意見が出てきて子どもの教育の中で同じように、みんなが楽しめる環境は必要だなと私は痛感していて、予算の問題はあるにしても、具体的に踏み込んで、特にこういう弱い地域があるということであれば、しっかりフォローアップしていくことが必要ではないかと、今日の会議を通じて感じたところでした。ありがとうございました。</p> <p>最後に申しあげておきますと、毎回、私は立場上、いろんなところで言っていますが、ここにいるメンバーが全員男性というのも、考えたほうがいかなと私自身は思っています。これは、どこの委員会でも、言うのですが30%くらいは、バランスがとれるかたちのほうが、いろんな意見が出てきますし、先ほど言ったようなところでも住みやすさを考えたら、考えていかなければいけないことかなと、今日は女性の委員がお休みというのがありますが、1名ですので、そういうことも含めて、どういうふう江田島市が住みやすいかということを考えていくうえでも、実感していくうえでも、そういうバランスも本来は必要だろうと感じているところです。余計なことかもしれませんが、付け加えさせていただきます。</p>

【令和5年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議要点録】

	<p>それでは以上で閉会したいと思います、事務局からございますか。</p>
事務局	<p>本日はありがとうございました。皆さまの、特に最近の事情等を聞かせていただき、われわれ市も大変ありがたかったと思います。この関係資料はホームページで公表するとともに、議事録も公表します。さらには、うちの内部の関係部署にも情報提供しながら、今後の施策を推進するときの参考にさせていただきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。</p>
座長	<p>ありがとうございました。非常に早いペースで進んで意見を十分くみとれなかったところもあるかと思いますが、皆さまから色々なご意見をいただいて、無事終了することができました。今後も様々なお立場から、ご意見を出していただいたり、市の施策にご協力いただければと思います。以上をもちまして、令和5年度第1回江田島市まち・ひと・しごと創生有識者会議を終了します。皆さまどうもありがとうございました。</p>